

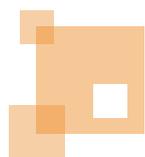


2017年(平成29年)10月 114号

CONTENTS

■ トピックス	
・ 中医協意見陳述「手応え有り」 産業ビジョン作成が奏功	1
■ リレー随想	
・ 懐古：光製薬株式会社 代表取締役社長 高橋 維朗	3
■ 中医協・薬価専門部会 関係業界からの意見聴取行われる	5
■ 委員会活動報告	
・ 常設委員会活動のご紹介【倫理委員会】	7
■ 新工場ご案内	
・ 小林化工株式会社 清間第二工場	9
■ GE薬協 新Webサイトのご案内	10
■ お知らせ	
・ ジェネリック医薬品シェア分析結果	11
・ MR教育研修実務者連絡会の開催	12
・ 9月のイベント参加報告	
第59回全日本病院学会in石川	13
第48回日本看護学会・在宅看護・学術集会	14
・ 10月、11月のイベント参加予定	
第50回日本薬剤師会学術大会	15
第31回日本臨床内科医学会	16
第27回日本医療薬学会年会	17
■ 知っ得 豆知識「パテントリンケージ」	18
■ 活動案内	19
■ 編集後記	20

トピックス



中医協意見陳述「手応え有り」 産業ビジョン作成が奏功

日本ジェネリック製薬協会（JGA）の吉田逸郎会長は、9月の中医協薬価専門部会の意見陳述後に会見を開き、今までの意見陳述とは異なり手応えがあったことを記者団に明かした。背景にはJGAが今年5月に「ジェネリック医薬品産業ビジョン」を発表したことで業界が持つ現状認識と将来のビジョンに中医協で一定の理解が進んだことがある。

「ポスト80%時代」を見据え後発品企業の進むべき道を描いた産業ビジョンでは、先発品の特許切れをめぐって多くのメーカーが後発品を発売するビジネスモデルをこのまま続けていくと、全てのメーカーが共倒れしかねないとして、国内で後発品を扱う企業に集約化を呼び掛けている。

意見陳述で診療側の安部好弘委員（日本薬剤師会常務理事）が、後発品企業の集約化や大型化にどう取り組むのかと質問したのに対し、吉田会長は産業ビジョンを念頭に「業界内では統合・再編の動きが出ている。水面下では、さらに動きがあると思う。企業数が減るのは必然だろう」と述べ、ビジョンで提言した再編の動きがすでに出ているとした。

今村聡委員（日本医師会副会長）も「早期に後発品企業の集約化・大型化をお願いしたい」と発言。これまでの意見陳述では薬価引き下げを要求する意見が委員から相次いでいたが、今回は産業ビジョンに賛同する委員の発言で議論を終えることができた。

産業ビジョンでは▽後発品大手による「総合型」▽他社の後発品や先発品、OTCの製造に特化する「受託型」▽小児用やがんなどに特化する「領域型」▽新剤形や新投与経路の改良を得意とする「製剤工夫型」一の4形態に集約化されると予想。将来にわたって医薬品を供給する努力を続けた企業が最終的に残るという改革案だ。

◇薬価要望実現は別物

薬価専門部会で産業ビジョンについては、委員の賛同を得ることができた。しかし薬価制度改革の要望は別物だ。来年度予算の編成過程で後発品の薬価引き下げによって財源を捻出する動きが出てくるかも知れない。

▽後発品薬価の価格帯集約をやめ銘柄別の薬価に戻すこと▽中間年改定の対象を価格乖離の大きい品目に限定する▽初収載の後発品薬価の現行水準の維持一のJGAの要望が

どこまでかなえられるか。

産業ビジョンの実現のためには現行の後発品算定ルールを維持する必要があることを理詰め政府与党、中医協に説明し続けていくほかはない。

※「トピックス」は、業界紙の記者に「最近のジェネリックに関わる動向」について連載いただいております。



リレー随想

懐古

光製薬株式会社
代表取締役社長 高橋 維朗

現在の当社の住所表示は東京都台東区今戸二丁目11番15号であります。

この住所表示は、昭和39年7月の住居表示改正により制定されたものであります。最近では携帯電話の地図ソフトがありますので目的地までの道のりで迷うことはありませんが、以前は遠方からご来社頂く方から、最寄りの駅は？ 台東区今戸？と問い合わせが多くありました。その住居表示改正以前は、東京都台東区浅草今戸町二丁目5番地という住所でありました。冠称に浅草とありましたので、おおよそ浅草界隈に居を構えていることがわかる表示でした。

近隣には、「浅草聖天町(現 浅草六丁目)」、「浅草吉野町(現 今戸)」、「浅草猿若町(現 浅草六丁目)」など歴史的に由緒ある地名が多くあります。浅草聖天町には、地名の由来になっています「待乳山聖天(マツヤマ ショウテン)」があります。正式名称は本龍院といい、ご本尊は十一面観音菩薩を本地仏とする聖天様です。

こちらの聖天様は、毎年1月7日に「大根祭り」というお祭りがあり、元旦以来ご本尊様にお供えされた大根を風呂吹きに調理し、御神酒と共に参詣者に提供します。

この聖天様の紋章の巾着と二股大根は、それぞれ商売繁盛、無病息災、夫婦和合、子孫繁栄の功德があるとされているようです。創建は飛鳥時代の595年(推古3年)といえますから、628年(推古36年)創建の浅草の観音様(金龍山 浅草寺)より古いお寺です。話しを戻しますが、この住居表示改正制度は、浅草に限らず都内23区部で実施されました。当然、千代田区、中央区も改正の対象ですが、住民から「歴史のある町名を変えることに反対」との運動が起こり、従来の住居表示が残ったと聞いております。そのおかげで「日本橋人形町」、「日本橋室町」、「日本橋小舟町」、「神田紺屋町」、「神田鍛冶町」等の冠称のついた素晴らしい町名が今も生き続けています。

当然、昭和39年の住居表示改正前には行政から種々の説明があったかと思いますが、浅草地区も旧住居表示存続の運動をしていましたら伝統ある旧町名を残せたのでは



ないかと残念に思います。この住居表示が改正された昭和39年という年は、東京オリンピックが10月10日に開催された年でもあります。

オリンピック開催の数年前から競技施設や付帯設備の建設が急ピッチで進められ、都内の首都高速道路もこの時期に建設されており日本の道標の中心である日本橋の橋の上に高速道路が建設され、昭和38年に開業しております。高速道路を日本橋の橋の真上に作ることになった経緯は知る由もありませんがいかに建設期間短縮、建設費用低減等の目的がありましても伝統ある文化財の景観を犠牲にしたことは非常に残念に思います。

先日、日本橋の上を走る高速道路を撤去し、新たに地下に高速道路を建築するという記事を見ましたが、是非実現してもらいたいと思います。50数年ぶりに青空の下で日本橋を見ることができるよう願っております。

伝統ある町の名前に触れ、歴史を感じることができる文化財を見て昔を懐かしむことができる時間が何よりの楽しみです。

中医協・薬価専門部会 関係業界からの意見聴取行われる

厚生労働省の中央社会保険医療協議会（中医協）の薬価専門部会が9月13日に開催され、薬価制度の抜本改革に対する関係業界からの2回目の意見聴取（前回は5月17日）が行われた。

今回は日本製薬団体連合会（日薬連）など5団体が意見陳述を行い、日薬連の意見陳述については日薬連の多田正世会長、製薬協の畑中好彦会長、当協会の吉田逸郎会長がリレー方式でプレゼンテーションを行った。

吉田会長は「後発医薬品産業の状況と取り組み課題」と題する資料を用いて、まず後発医薬品産業が「数量シェア80%目標の早期達成と将来に渡る安定供給体制の確立」と「集約化・大型化、後発医薬品産業の構造転換」という2つの重要課題に直面している現状を説明。その上で「ジェネリック医薬品産業ビジョン」を紹介し、ビジョン実現のためにも後発医薬品の薬価についての3点の要望事項の実現を強く訴えた。

意見陳述後の質疑では、診療側の安部好弘委員（日本薬剤師会常務理事）より「集約化・大型化」の具体的なイメージについての質問があった。これに対して、吉田会長は「ジェネリック医薬品産業ビジョン」に例示された今後の各社が目指すべき企業像として、「研究開発に特化する企業」・「特定の剤形に特化し製造受託を行う企業」・「特定の領域に特化した企業」などを紹介し、各社がそれぞれの強みを生かして役割を明確化し、効率化を進める必要性を述べた。さらに「集約化・大型化」の結果、会社数・品目数の削減につながるとの見通しを示した。

また、支払側の幸野庄司委員（健康保険組合連合会理事）より、2017年央の後発品数量シェア70%以上の目標の達成状況を確認する質問があり、吉田会長は「当協会では把握しているのは2016年度第4四半期（1月～3月）の数量シェアの67.1%であり、2017年央の数値は把握していない」と回答した。これに対して幸野委員は「70%に到達しなかった原因の総括をするべき。原因の1つとして、若年層で後発医薬品の使用率が低いとのデータもあり、公費助成がどう影響しているのか、それに対し日本ジェネリック製薬協会も行政に対してどのような働きかけをしているのかを是非示していただきたいと思う。」など80%目標の達成に向け、後発医薬品のさらなる使用促進を後押しするような意見を述べた。

このように、この日の薬価専門部会では後発業界側に対し、産業ビジョンや使用促進に関する質問や意見はあったが、後発品の薬価制度に関する具体的な質問はなかった。

今後12月にかけて引き続き議論が行われ年内には新しい薬価制度の骨子が決まる見込み。



常設委員会活動のご紹介



倫理委員会

<常設委員会への移行>

倫理委員会は、2009年に発生した会員企業の薬事法違反に対する行政処分を受け、2010年4月に設置されました。その後の7年間は非常設委員会として活動を行ってまいりましたが、本年3月の理事会において承認され、4月に常設委員会に移行しました。

<運営体制>

常設委員会としての初年度の運営委員会は、15社から15名の登録がございました。数社の理事会社の実務委員にて運営していた従来に比べ、より多くの会員会社が運営に参画することとなり、多様な意見を取り入れた活動ができるものと期待しています。なお、すべての会員会社に、コンプライアンス責任者及び担当者を各1名ずつ選定し、届出をお願いしています。

<役割>

ジェネリック製薬企業の責任と使命は、品質の優れたジェネリック医薬品を開発し、リーズナブルな価格で供給することにより、国民の健康と福祉の向上に貢献することです。この責任と使命を果たしていくうえで、法令・企業倫理に基づいた経営や事業活動は欠かせません。ジェネリック医薬品産業の健全な発展を担保するため、GE薬協会員会社のコンプライアンス経営の推進を支援することが倫理委員会に求められる大きな役割です。

<自主行動基準>

日本ジェネリック製薬協会(以下、GE薬協)の自主行動基準は、協会のウェブサイトで広く公開されています。GE薬協会員会社は、かかる自主行動基準に基づいて、自社のコンプライアンス・プログラムや倫理コードの整備と運用を推進していただくこととなります。倫理委員会では、環境の変化等に応じて基準の見直しを行います。なお、2016年に「GE薬協コンプライアンス・プログラム・ガイドライン」を見直しました。会員各社のコンプライアンス責任者や担当者の方は、自社プログラムの見直しのためにもご参照ください。

<モニタリング>

「GE薬協コンプライアンス・プログラム・ガイドライン」に準じた体制の整備・運用の状況を把握するために、2年に1回の頻度でアンケート調査しております。これらのアンケート調査の結果を踏まえ、活動における重点項目などを検討しています。

<教育・研修>

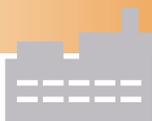
年に1回、会員各社のコンプライアンス責任者及び担当者を対象として、コンプライアンス研修会を開催しています。有識者による講演会、参加者によるワークショップ、会員会社の取り組み紹介など、参加者のトレーニングにとどまらず、社内に持ち帰って自社の活動に展開していただける内容となるように努めています。

また、会員各社の経営層に対する啓発活動は、トップダウンでコンプライアンス経営に取り組んでいただくうえで非常に重要であるとの認識のもと、役員向けの講演会なども企画しています。

<会員の皆さまにお願い>

倫理委員会の活動は、各社コンプライアンス推進の実務に大いに役立つものでなければなりません。今後、会員各社のコンプライアンス責任者や担当者とのコミュニケーションを増やしていきたいと考えます。会員各社の役職員の皆さまからも、コンプライアンス責任者や担当者を通じて、研修や情報発信に関して忌憚ないご意見・ご要望をお寄せいただけますと幸いです。

新工場ご案内



小林化工株式会社 清間第二工場



清間第二工場外観

2016年12月、福井県あわら市の清間工場敷地内で清間第二工場が稼働を開始しました。ロボット化することで、ヒューマンエラーを防止し、作業効率を高めています。

さらに、隣接の物流センターとは地下通路（地下カルバート）でつながっており、工場で製造した製品を自動搬送することが可能となっています。

生産能力は年間10億錠（フル実装した場合、45億錠まで増産可能）で、グラビティシステムによる各製造工程のライン化により、一定期間、特定製品の専用ラインを構築することも可能です。

このように、清間第二工場はローコストオペレーションを追求し、高品質なジェネリック医薬品の安定供給を実現しています。



流動層造粒乾燥機



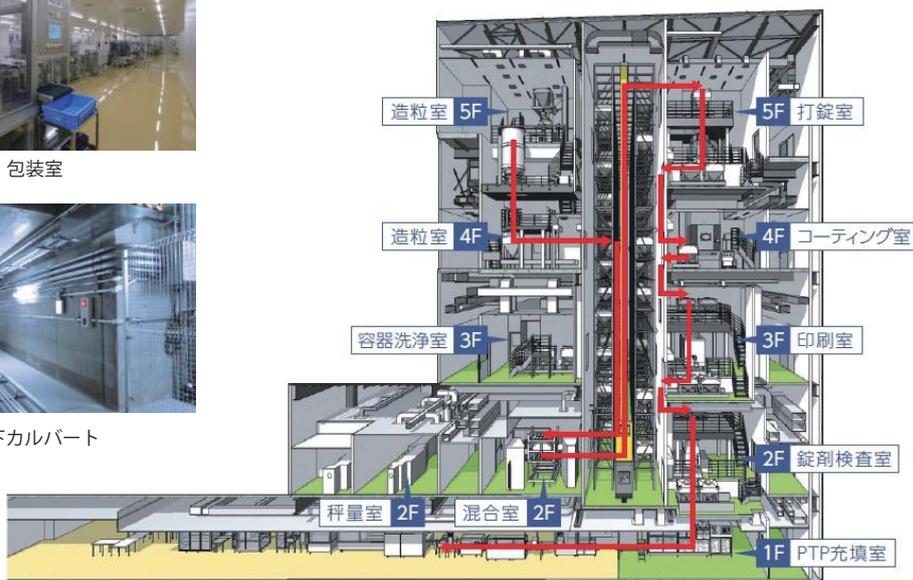
包装室



ダンボールケーサー



地下カルバート



【建築概要】

建築面積：5,109.69㎡ 最高高さ：35.15m
 延床面積：12,238.79㎡ 鉄骨造、5階建て

GE GE薬協
薬協

新Webサイトのご案内(2017年9月20日～)

日本ジェネリック製薬協会は、国内数量シェア80%とその先の時代へ向けて、さらに皆様にご満足いただける充実した情報提供体制を整えるため、協会Webサイトをリニューアルいたしました。「JGApedia」など新コンテンツ等も設置され、今後さらに発信情報も充実していく予定です。ぜひ引き続きご利用いただけますと幸いです。

3つの改善ポイント

1 ユーザビリティ※強化

2 コンテンツ強化

3 アクセシビリティ※強化

※ユーザビリティとは、ユーザーの使い易さなどを意味します。

※アクセシビリティとは、Webサイト上でのバリアフリー対応です。「高齢者や心身の機能に制約のある方も、年齢的・身体的条件に関わらず、ウェブで提供されている情報にアクセスし利用できること」を意味します。

見やすい背景色を選択できるようになりました。



GE薬協 新Webサイト <http://www.jga.gr.jp/>

お知らせ



ジェネリック医薬品シェア分析結果

■平成29年度第1四半期（4月～6月）の
ジェネリック医薬品（GE医薬品）の数量シェア分析結果（速報値）

第1四半期の数量シェア
67.8%

【参考】

（1）四半期ごとのGE医薬品数量シェア分析結果の推移[速報値]

	平成28年度			
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
数量シェア	63.7%	65.1%	66.4%	67.1%

Q: 四半期

- (注)・数量は製販業者からの出荷数量。
・四半期ごとのシェア数値は、GE薬協理事・監事会社のデータ及びIMSのデータをもとに推計した速報値である。

（2）シェアの計算方法：

$$[\text{GE医薬品のシェア}] = \frac{[\text{GE医薬品の数量}]}{[\text{GE医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{GE医薬品の数量}]}$$

お知らせ



MR教育研修実務者連絡会の開催

1. 日 時：平成29年10月25日（水）13:00より
2. 場 所：ベルサール八重洲 「ルームD+E」
東京都中央区八重洲1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル2階

3. プログラム：

I. 講 演

講演 I)：「地域包括ケア時代に求められる－MR像18年度改定のその先にあるもの」

講師 株式会社ミクス Monthlyミクス編集長 沼田 佳之 先生

講演終了後、沼田編集長とのディスカッションを予定しております。

講演 II)：「在宅薬剤師業務等を円滑に行うための製薬企業MRの対応について」

講師 公益社団法人 東京都薬剤師会 副会長

有限会社クリーン薬局 代表取締役 大木 一正 先生

II. MR教育研修 事例報告

大原薬品工業株式会社

- ※ 本研修会は、当協会会員会社であれば、どなたでも参加可能です。
- ※ 参加ご希望の方は会社のMR教育研修実務者及び、信頼性向上プロジェクト委員、庶務担当者、技術担当者にお送りしております参加申込書にて、10月18日までに
お申込下さい。



お知らせ

9月のイベント参加報告

第59回全日本病院学会in石川

【医療関係者向け／展示】

開催日：平成29年9月9日（土）～10日（日）

会場：石川県立音楽堂、ホテル日航金沢、ANAクランプラザホテル金沢、金沢市アートホール

趣旨：「大変革前夜に挑め！～今こそ生きるをデザインせよ～」をテーマに開催された本学会は、日本の未来・医療人の未来を豊かなものとするために、全日本病院協会会員施設を中心とした多くの医療関係者の皆様が一堂に会して、我が国の医療の真にあるべき姿、その方向性について議論を交わし、地域医療に携わる全ての方々が明るく希望の持てる未来を共に考えていくことを目的とし、約3,000名の方が参加されました。

当協会は、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、ジェネリック医薬品情報提供システムのご紹介、当協会の取り組みなどを説明する展示を行い、約250名の方にお立ち寄りいただきました。





お知らせ

9月のイベント参加報告

第48回日本看護学会-在宅看護-学術集会

【看護師向け／展示】

開催日：平成29年9月14日（木）～15日（金）

会場：つくば国際会議場（エポカルつくば）

趣旨：「選ばれる在宅看護の実現！～一步ふみ出そう！切れ目のないケアを目指して～」をテーマに開催された本学会は、2025年を見据えて在宅看護の重要性が高まっている中であって、在宅看護の価値を問い直すことが重要であり、改めて在宅看護の価値について、行政や在宅看護の現場での豊富な知識と経験を踏まえて講師よりご講演頂き、看護職として他職種との有機的な連携を推進していくための方法等について考える機会となり、約1,380名の方が参加されました。

当協会は、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、ジェネリック医薬品情報提供システムのご紹介、当協会の取り組みなどを説明する展示を行い、286名の方にお立ち寄りいただきました。



お知らせ

10月のイベント参加予定

第50回日本薬剤師会学術大会

【薬剤師向け／展示】

開催日：平成29年10月8日（日）～9日（月・祝）

会場：東京国際フォーラム

趣旨：「Pharmacists Practicing with Pride～新たな時代に向けて、さらなる飛躍～」をテーマに開催される本学会は、知識と意識を高め、誇りを持って次の時代に向かって飛躍しようというメッセージを込めており、50回という歴史を振り返りつつ、次なる50年へ向けて飛躍するきっかけとなることを目的としています。

当協会はブースを出展し、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、ジェネリック医薬品情報提供システムのご紹介、当協会の取り組みなどを説明することとしています。



お知らせ

10月のイベント参加予定

第31回日本臨床内科医学会

【医師向け／展示、セミナー】

開催日：平成29年10月8日（日）～9日（月・祝）

会場：ホテルニューオータニ大阪

趣旨：「新たなる臨床内科学の夜明け～看取りからiPSまで～」をテーマに開催される本学会は、在宅での看取りの問題、高齢者医療から医療IT、iPS細胞の臨床応用まで幅広い話題を取り上げることとしており、全国から約1,400名の実地医家の参加を予定しています。

当協会はジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、ジェネリック医薬品情報提供システムのご紹介、当協会の取り組みなどを説明する展示とランチョンセミナーに共催することとしています。

ランチョンセミナー

開催日：平成29年10月9日（月・祝）

会場：ホテルニューオータニ大阪

テーマ：「ジェネリック医薬品の新たなロードマップ」

座長：峰松 一夫 先生（国立循環器病研究センター病院長）

演者：武藤 正樹 先生（国際医療福祉大学大学院教授）

参加予定者：160名

お知らせ



11月のイベント参加予定

第27回日本医療薬学会年会

【薬剤師向け／展示】

開催日：平成29年11月3日(金・祝)～5日(日)

会場：幕張メッセ、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張、ホテルニューオータニ幕張

趣旨： チーム医療という医療形態の中で、薬剤師が必要とされている薬物療法に対する専門性、病診・薬連携による地域医療、在宅医療の充実への貢献等は、将来の医療形態を考える上でも極めて大切な事柄であり、その行為を遂行しさらに質を高めていく上で、医療薬学は基盤となって行くべき唯一の学問分野であると考えます。第27回年会では、「医療薬学が切り拓く薬剤師力の深化・醸成～医療人としてより輝くために～」をテーマに、医療薬学という学問をより発展させるべく大いに議論できる場とすることを目的としています。

当協会はブースを出展し、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、ジェネリック医薬品情報提供システムのご紹介、当協会の取り組みなどを説明することとしています。



「パテントリンケージ」

ジェネリック医薬品の販売後に、特許侵害訴訟などにより製品の安定供給の問題が生じることを防ぐよう、薬事当局がジェネリック医薬品（後発医薬品）の承認にあたって、特許の有無を考慮する仕組みです。

T P P協定では特許期間中にジェネリック医薬品を販売しようとしていることについて、その販売前に特許権者（先発医薬品メーカー）に通知または通知を受けられるようにする制度（米国型）、先発医薬品メーカーとの事前調整を求める手続（日本型）などが取り決められている一方、国によって制度設計は大きく相違します。

日本におけるジェネリック医薬品と承認との関係では、「医療用後発医薬品の薬事法上の承認審査及び薬価収載に係る医薬品特許の取扱いについて（平成21年6月5日 厚生労働省医政局経済課長・医薬食品局審査管理課長通知）」に基づく当局の指導により「先発医薬品の有効成分に特許が存在することによって、当該有効成分の製造そのものができない場合には、後発医薬品を承認しないこととなっています。



活動案内

(平成29年 9月26日現在)

〈日誌〉

9月 1日	薬価委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 4日	COP委員会正副委員長会議	東京八重洲ホール会議室
9月 5日	臨時常任理事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 5日	総務委員会広報部会ニュース・原稿グループ会議	東京薬事協会会議室
9月 6日	総務委員会広報部会イベント・講演グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 7日	総務委員会総務部会	小林化工(株)清間第二工場会議室
9月 11日	信頼性向上プロジェクト全体会議	ベルサール八重洲会議室
9月 14日	くすり相談委員会	東京八重洲ホール会議室
9月 15日	薬価委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 19日	COP委員会	〃
9月 20日	薬制委員会(幹事会)	〃
9月 20日	薬制委員会全体会議	東京八重洲ホール会議室
9月 20日	総務委員会広報部会コミュニケーション広報戦略グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 21日	常任理事会・理事会	〃
9月 21日	安全性委員会(幹事会)	東京八重洲ホール会議室
9月 22日	知的財産研究委員会	〃
9月 27日	総務委員会広報部会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 28日	信頼性向上プロジェクト(MR教育研修検討チーム)	〃
9月 29日	薬価委員会(幹事会)	東京八重洲ホール会議室
9月 29日	薬価委員会運営委員会	〃
9月 29日	薬事関連委員連絡会	〃

〈今月の予定〉

10月 2日	倫理委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室
10月 5日	総務委員会広報部会ニュース・原稿グループ会議	〃
10月 6日	くすり相談委員会全体研修会	ベルサール八重洲会議室
10月10日	総務委員会総務部会	日本ジェネリック製薬協会会議室
10月 11日	総務委員会広報部会コミュニケーション広報戦略グループ会議	〃
10月 12日	総務委員会政策部会	ガーデンホテル金沢会議室
10月 13日	国際委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室
10月 13日	COP委員会正副委員長会議	東京八重洲ホール会議室
10月 16日	薬価委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
10月 18日	薬制委員会(幹事会)	〃
10月 19日	常任理事会・理事会	新大阪ワシントンホテルプラザ
10月 24日	製剤研究会	ベルサール八重洲会議室
10月 25日	流通適正化委員会	東京八重洲ホール会議室
10月 25日	信頼性向上プロジェクト(MR教育研修全体研修会)	ベルサール八重洲会議室
10月 26日	安全性委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
10月 26日	安全性委員会全体会議	東京八重洲ホール会議室
10月 26日	総務委員会広報部会(幹事会)	東京薬事協会会議室
10月 26日	総務委員会広報部会イベント・講演グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
10月 27日	薬価委員会(幹事会)	〃
10月 30日	信頼性向上プロジェクト(文献調査検討会)	〃
10月 31日	薬事関連委員連絡会	東京八重洲ホール会議室
10月 31日	信頼性向上プロジェクト常任委員会	〃



編集後記

IoTやAI、ARやVRなどこれからの社会のあり方を大きく変える可能性のある技術革新の発展が目覚ましい。またFacebookやインスタグラム、ラインといった、既に日常生活に定着しライフスタイルの変容を促すICT技術についても、その存在は無視できない状況になりつつある。

デジタル技術の発展とICTの貢献や効果及びサービスについて振り返ってみたい。技術革新と共にメールはもちろん音楽や動画配信などの分野で料金の低減や無料化が促進される、ネットスーパーやEコマースにより製品やサービスの購入が出来る様になる、いろいろなアプリが開発されて健康管理に役立てることが可能になる、SNSを通じてリアルタイムで情報が共有される、などが挙げられる。またそういった仕組みがなかった時代には、検索は図書館に出向き書籍で調べる、もしくは知識を持つ人物に対してインタビューをするなどして理解を深めるなどの方法が一般的であったが、現在はネット検索で膨大な情報にアクセス出来る様になった。また利用者がアップした動画や写真などのコンテンツはもちろんのこと、ノウハウや利用者のレビューも蓄積される。この一連の流れを通じて、今後もアクセス可能で利用可能な情報量は益々増加していくものと思われる。多くの情報の中から自分にあったものにアクセス出来る様になる一方で、その中から自分にあったものをどのように選択するかが非常に重要になる。自分の状況に応じて正しい情報を選択することは簡単に聞こえるが実は難しい。

総務省の『平成18年度情報流通センサス報告書』によると、平成8年度を基準として指数化した情報流通量を見てみると、平成18年までの10年間で、選択可能情報量の伸びは530倍とのこと。一方で消費可能情報量は33倍だった。これは人々が選択することが可能な情報量の伸びが飛躍的に伸びる一方で、選択して消費することが可能な情報量の伸びはそれに伴っていないことを示している。約10年前の調査ということ踏まえると、現在はいったいどうなっているのだろう。情報の洪水の中に身を置いた場合、ある一定の量を超えると、どんなに価値のある情報に対しても耳や目を閉じ受け付けなくなるという研究結果もある。また次々と新しい情報が現れるため、興味関心が長続きせず飽きっぽくもなるらしい。

昨今の報道によると、約90%の中高生は自分専用のスマートフォンを持ち、日常的にSNSを使用しているという。日本も世界に類を見ないスピードで高齢化が進展、それに伴って私たちを取り巻く環境も大きく変化してきている。医療を取り巻く制度や仕組みについても社会の変化に合わせて変わっていくことが予想される。自分らしく生きていくために情報を取捨選択し暮らしに生かしていく力が求められる時代において、情報弱者への寄り添いとはどういうものかを考えないではられない。

(KT)

■編集

日本ジェネリック製薬協会
総務委員会広報部会

■発行

日本ジェネリック製薬協会
〒103-0023 東京都中央区 日本橋本町 3-3-4 日本橋本町ビル 7F
TEL: 03-3279-1890 / FAX: 03-3241-2978
URL: www.jga.gr.jp